

カテゴリー変更及び理由【哺乳類】

和名	旧和名	宮城県RL 2021	宮城県RDB 2016	変更	カテゴリー変更の主な理由
ホンドノレンコウモリ		DD	—	新規	国内分布状況から県内に生息する可能性がある。県内では、2014年に初めて1例が確認されたため。
ネズミイルカ		DD	—	新規	県沿岸に生息すると推測されているが、記録は漂着1例のみであるため。
ラッコ		DD	—	新規	日本では20世紀初頭に絶滅したとされていたが、1980年代以降北海道で目撃されるようになる。県内では2008年、2018年にそれぞれ1頭が確認されたため。
トド		DD	—	新規	北太平洋に生息し宮城県は生息範囲であるとされるが、目撃例はほとんどない。県内では1例のみであるため。
ヒナコウモリ (東松島町のヒナコウモリ)		LP	VU	変更	本種の安定的な生息環境を維持する上で重要な役割を果たしている季節的な大規模洞窟越冬集団が東北では唯一、松島町で継続的に観察され、東日本大震災の大きな影響を受けたものの現在も集団が維持されているため。
スナメリ (仙台湾—東京湾海域個体群)		LP	—	変更	仙台—東京湾にかけて2,500頭程度が生息し個体群の存続の懸念があると考えられている。また、宮城県が本種の分布北限であるため。
コビレゴンドウ(タツパナガ)		LP	—	変更	タツパナガは、コビレゴンドウのうち北部日本太平洋沿岸の限られた地域に生息する個体群である。1992年に個体群サイズが5300頭と推定されており、十分に多いとは言いがたい一方で商業捕鯨の対象であり、一定の捕獲圧が懸念されるため。